

みんなで奏でるひとつの音楽 — 音楽発信基地 in 酒田 —

～ 共生社会の実現を目指して吹奏楽で地域・人を元気に！

社会包摂を伴う活動の展開を目指して ～

《 酒田吹奏楽団の経歴とご紹介 》



(令和7年6月8日 酒田吹奏楽団「第53回定期演奏会」撮影)

1 酒田吹奏楽団の概要について

(1) 酒田吹奏楽団とは

1971年（昭和46年）に創立された社会人を主体とするアマチュアの吹奏楽団です。2021年（令和3年）に創立から50周年を迎え、OB会をはじめ楽団の活動をサポートする外部組織も発足しています。地域の音楽文化の発展に寄与することを目的に、毎年2回の主催演奏会事業をはじめ、全日本吹奏楽コンクールへの出場の他、ボランティア訪問演奏事業、公益演奏事業、学校教育支援事業を実施しています。

(2) 団員の構成と特徴について

酒田市及びその近郊在住の10代から60代まで幅広い年齢層の団員50余名によって構成され、音楽性向上のために高い目標を持ちながら練習に励んでいます。また、所属団員は県内在住者を中心に構成され、会社員、個人事業主、公務員、農家から大学生まで職種也多岐に渡っています。庄内地区外の希望者も入団可能な準団員制度を創設し、不定期な参加も可能とするなど、吹奏楽を楽しみたい人のニーズに応えるサポートなども行っています。

2 主催事業・重点活動事業の紹介について

(1) ボランティア訪問演奏活動

主催事業として社会福祉を楽団の重点事業に位置付け、地域貢献をテーマにして取り組んでいます。平成28年に酒田市社会福祉協議会会長表彰、平成31年に山形県民福祉大会会長表彰を受賞。

また、演奏会などにおいて直接会場に来ることが出来ない層に向け、音楽に触れる機会を提供することを目的にボランティアで実施しています。単なるレクリエーションとしてではなく、来場者や入居者との触れ合いを大切にすることで若い世代の福祉に対する意識の育成も同時に行っています。

令和元年から新型コロナウイルスの影響によって演奏機会が激減していましたが、令和5年度から徐々に増加しており、現在は社会包摂の考え方を取り入れた活動として展開しています。



オレンジリー山形第2保育園



さくらの里ミニコンサート



日本海総合病院クリスマスコンサート

[活動一覧(過去5年程度)]

- R 元～R.3 コロナ禍により活動一時休止中
- R 4.12.24 日本海総合病院クリスマスコンサート
- R 5. 2.12 親子で参加する「わくわく音楽会」
- R 5. 5.15 オレンジリー山形第2保育園 幼児対象出張演奏
- R 5.11.25 親子で参加する「わくわく音楽会 Part2」
- R 5.12.23 日本海総合病院クリスマスコンサート
- R 6. 2.24 さくらの里ミニコンサート

[活動理念]

社会包摂の考え方を基本に、社会福祉活動としてボランティアで演奏活動を行っています。活動や触れ合いを通じてハンディキャップを負う人々への団員の意識醸成も図っています。

(2) 公益演奏活動

官民間問わず地域イベントにおいて演奏活動を年間通じて行っています。酒田市、商工会議所、中町商店街組合、東北公益文科大学の生徒主催イベントなど多方面に渡り、平成30年度から酒田市公益活動団体に指定されて以降、市内で行われる地域を盛り上げるためのイベントに積極的に関与してきました。また、近年は団員による司会育成をはじめ選曲プログラムに力を入れるなど、演奏会に準じた扱いにすることで依頼側のニーズに応えた活動として実践しています。



MSC スplendida 歓迎セレモニー



ミライニオープンセレモニー



SAKATA アートマルシェ

[活動一覧(過去5年程度)]

- R 5. 6. 13 山形県商工会議所女性会連合会 第39回通常総会
- R 5. 7. 8 鳥海地区「七夕フェスタ」
- R 5. 8. 11 さくら堤自治会「夏まつり」
- R 5. 11. 3 海外クルーズ船寄港歓迎イベント
- R 6. 1. 20 蔵元洋食
- R 6. 2. 17 東北吹奏楽指導者講習会(モデルバンド)
- R 6. 2. 18 東北吹奏楽指導者講習会(ファイナルコンサート)

[活動理念]

公益の観点から地域を盛り上げる企画、賑わい創出に繋がるイベントに出演しています。

人との繋がりを重視し、地域に根差した楽団として役割を果たすことを目的として活動しています。

(3) 学校教育支援事業

地域の音楽文化発展に向けた取り組みの一環として、学校教育・社会教育に重点を置いた活動を展開しており、部活動の地域移行を見据えてサポートを開始しています。学校教育の場においては教員の負担軽減を目的として生徒の初期指導を重点的に担当しており次世代の地域音楽文化を担うリーダーシップある人材を育てる試みとして重点目標として実践しています。また、部活動の地域移行への支援として、市内唯一の社会人吹奏楽団として技術指導を請け負っています。



高校生対象管楽器講習会



鳥海八幡中学校ホタルコンサート



幼児による楽器体験

[活動一覧(過去5年程度)]

指導実績：H31 29回 / R元 34回 / R2 29回 / R3 42回
(技術指導) R 4 56回 / R 5 53回 / R6 61回

[活動理念]

酒田飽海地区の吹奏楽レベルの向上と共に、将来の担い手を育てることを目的に、土日祝日を活用して団員各自が楽器指導を定期的に行っています。

(4) 主催演奏会事業（春季演奏会「定期演奏会」／ 秋季演奏会「プラスのひびき」）

クラシック、演歌、歌謡曲、ポップスに至る幅広いジャンルが演奏出来る吹奏楽の利点を活かして毎年2回主催しています。近年は演奏技術の向上と共に芸術分野の垣根を超えた企画を立案するなど先駆的な企画が評価され、複数回にわたり1,000人を超えるお客様にご来場いただいています。

① 春季演奏会「定期演奏会」について

4月下旬頃に開催する演奏会です。テーマに沿ってクラシックからポップスに至る幅広い選曲は回を重ねる毎に評価されています。また、演奏を披露するだけではなく、社会福祉活動として、地震や豪雨などに被災した地域を応援する特産品プレゼントなど、独自企画を実施しています。

② 秋季演奏会「プラスのひびき」について

12月初旬に開催する演奏会です。地域・人への感謝をテーマに開催し、歌や写真、ダンスなど他分野と協力した企画が好評を得ています。他にも、恒例のOB会協賛による曲当てクイズ企画は、地元産の新鮮な農産物を景品にするなどその独自性が高く評価され、地域に根差した楽団として多くのお客様に喜んでいただいています。



令和5年度開催 プラスのひびき 2024

③ 八幡地区復興コンサートについて

令和6年に発生した豪雨災害で被災した地域や住民への応援の意を込めて、令和7年8月24日に八幡地域において本団主催により開催しました。「被災地域のために出来ることをしたい」との団員の思いから始まった企画であり、フルコンサート形式で午前と午後の2回公演を行いました。地域からは多くの反響が寄せられたとともに、喜んでいただきました。本団が理念に掲げている「地域に根差した活動」のひとつです。



令和7年度開催 八幡地域復興コンサート

(5) 全日本吹奏楽コンクールへの出場

合奏力・技術力の向上を図ることを目的として、夏季に開催されるコンクールに出場しています。1972年に初出場して以降、演奏事業に力を入れるため不参加を選択する年もありながら、これまで出場を継続しています。1985年に東北代表として全国大会に初出場、2021年に2度目となる全国大会出場権を得ています（コロナ禍により出場辞退）。

[過去の実績]

1985年 全日本吹奏楽コンクール全国大会出場 銅賞（開催地：福岡県）

2021年 全日本吹奏楽コンクール全国大会出場 コロナ禍のため出場辞退（開催地：香川県）

※ 過去4回の他、2009～2023年まで山形県代表として東北大会14回出場。

（2022年は創立五十周年記念事業に注力するため大会は不出場）

3 受賞経歴等について

昨年に創立から50年を経過した当楽団ですが、それまで積み重ねた実績と経験が評価され、各種表彰を頂戴しています。頂戴した荣誉に恥じる事のないよう、今後も活動の継続と発展を目指して努力して参ります。

[授賞経歴]

平成28年度	酒田市社会福祉協議会会長表彰授賞
平成30年度	酒田市・公益活動団体指定
〃	山形県民芸術祭奨励賞受賞（プラスのひびき2018）
令和元年度	山形県民福祉大会会長表彰受賞
令和4年度	酒田市 庄内文化賞受賞
〃	山形県民芸術祭優秀賞受賞（スペシャル・ガラ・コンサート）

4 寄付活動の実施について

2011年に発生した東日本大震災以降、開催する主催演会において募金活動を行っています。他にも、2018年に発生した北海道胆振東部地震、2022年のロシアにより侵略されたウクライナへの応援企画、2024年に地元酒田で発生した豪雨災害への支援などを実施してきました。

また、社会課題の解決を目指す取り組みを応援するという趣旨に賛同し、演奏会内において2015年から赤い羽根共同募金を始め、来場されるお客様に呼びかけて寄付をお願いしています。

(1) 災害復興支援募金 合計：532,115円

題 名：第39回定期演奏会（東日本）
寄付先：日本赤十字社
内 訳：チケット売上から 96,200円
会場内募金 179,590円

題 名：プラスのひびき2012（東日本）
寄付先：酒田市健康福祉部福祉課
内 訳：会場内募金 20,694円

題 名：第51回定期演奏会（能登半島地震）
寄付先：酒田市社会福祉協議会
内 訳：会場内募金 35,631円

題 名：プラスのひびき2024（豪雨災害）
寄付先：酒田市（八幡総合支所）
寄付額：200,000円
内 訳：酒吹から 143,407円
会場内募金 56,593円

(2) 赤い羽根共同募金 合計：117,852円

[楽団からの直接募金]

年 月：2015年12月
内 訳：団会計から 50,000円

[演奏会事業における募金活動]

題 名：ブラスのひびき 2015
内 訳：会場内募金 4,510円

題 名：ブラスのひびき 2018
内 訳：会場内募金 4,936円

題 名：ブラスのひびき 2020
内 訳：会場内募金 18,959円

題 名：ブラスのひびき 2023
内 訳：会場内募金 8,659円

題 名：ブラスのひびき 2017
内 訳：会場内募金 9,074円

題 名：ブラスのひびき 2019
内 訳：会場内募金 14,566円

題 名：ブラスのひびき 2021
内 訳：会場内募金 7,148円

募金総額：649,967円

5 本団の中期・長期目標について

本団では、令和7年8月24日に「八幡地域復興コンサート」を八幡タウンセンターの交流ホールにおいて開催しました。開催に至っては例年出場している夏季の吹奏楽コンクールの欠場を団内において協議しましたが、「被災地域のために出来ることをしたい」という団員からの想いを尊重しています。コンクールの出場よりも地域の復興・復興の応援を優先したことは本団にとっての変化であり、「地域に根差した活動」の理念が団員間に浸透した結果でもあります。これまで受動的であった活動が能動的な活動に転換した契機であり、被災地域からの寄せられた喜びの声は楽団にとっての自信に繋がり、経験と実績は今後の活動に対しても有益な効果を生むことが期待されています。

地方の人口減少は今や避けようのない現象であり、様々な面において影響が生じつつあります。普段の生活の中では気づき難いものの、地域の衰退は緩やかに進行しており、本市においても中心地をはじめ農村地域の変化は目に見える形で発生しつつあります。本団ではそうした状況や市の環境を鑑み、令和15年までを体制強化の期間と位置付け、活動基盤の安定化や強靱化を目的とした組織体制の充実を図ることを目標として掲げます。加えて、市が目指す「社会包摂」の考え方を取り入れ、令和18年までの活動目標として、脆弱になりつつある地域コミュニティの「つながり」を守り、維持するための活動に取り組んでいきます。楽団の長期目標として、音楽を通じて賑わいの創出を目指し、地域コミュニティへの支援を実践してまいります。

令和7年8月24日（日）開催

酒田吹奏楽団主催「八幡地域復興コンサート」 ～地域と人の力になる。～

